

今月は、保護者ボランティアとして公立小学校で英語活動などの支援からスタートし、その後埼玉県さいたま市の英会話講師としての長年の指導経験を経て、昨年度からは非常勤講師となり担任の先生とチームティーチングで指導をされている村松さんの実践報告となります。



村松真紀子さん

J-SHINE 通信

2017年6月号

J-SHINE資格取得後、保護者ボランティア、スクール支援員、英会話講師など様々な形で公立小学校での英語指導に携わる。現在は、さいたま市グローバルスタディ科非常勤講師。J-SHINE上級指導者資格取得者。

■J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

英語は好きで得意でしたが留学など海外生活経験はなく、スピーキングには苦手意識がありました。思い立って受講した通信教育で英語の面白さを再認識したと同時に、教材に入っていたチラシの言葉「小学校英語必修化」に興味を持ちました。コース修了後に児童英語教師養成講座と小学校英語指導者資格認定講座も受講して、J-SHINE 資格を取得しました。保護者ボランティアをしたり、公民館の英語クラブを友達と立ち上げたり、とにかくスタートしました。その後スクール支援員となり、公立小学校で1～6年生の英語活動や1年生の学級支援をしながら「英語の指導に専念したい。」と思っていたところ、「さいたま市 潤いの時間小・中一貫英会話」（以下「英会話」）の講師募集があり、採用されて2007年度から小学校で「英会話」の指導を始めました。初回更新時には上級指導者資格を取得。2016年にグローバル・スタディ科非常勤講師に採用されて現在に至ります。

■現在の活動状況

2016年度から始まった小学校1年生から中学校3年生までの教科「グローバル・スタディ」、私の担当は小学校5・6年生（各5クラス）です。初年度は1クラスにつき週1.5時間、今年度からは週2時間、さいたま市が作成したカリキュラムに沿って指導しています。「英会話」の頃から、各学校の実態に合わせて授業内容をアレンジする際も目標と評価規準は変えないことになっています。

5・6年生の授業は基本的に担任とのチームティーチングで、非常勤講師は英語で話し、時には担任が時には私がリードして活動を進めます。担任には、めあての確認やタイトルコール、英語で話すモデル、指名、理解の確認などをお願いしています。授業のめあてや活動の流れをつかんで指導していただくために、打ち合わせが欠かせません。休み時間に学年の先生1人と打ち合わせし、学年会で他の先生に伝えてもらいます。カリキュラムに指導案はありますが、授業イメージを効率的に共有するために私が書いた指導案を早めに渡し、事前に目を通していただくよう

お願いしています。目標と評価規準を念頭におき、市の指導案を読んで私がイメージした授業の流れが伝わるように、書かれている指導や評価のポイントを落とさないように気を付けて作り、違う活動を一部提案することもあります。毎回残している授業記録が、次の工夫や改善に役立っています。他に授業準備、ワークシートなどの教材作成、できる範囲でALTのサポートもします。今年はお互いの授業スケジュールが違うため、ALTとの接点が減ったことが残念です。

「グローバル・スタディ」は「英会話」と重なる部分も多いのですが、読み・書きが加わったうえ内容がより充実しました。1年生からの積み重ねが前提なので、初年度は5・6年生児童の実態に合わず、指導をどう工夫するかに苦労しました。2年目の今年度、子どもたちが意欲的に取り組んでいることを早くも実感しています。昨年度「グローバル・スタディ」の授業を受けてきた新5年生は、英語に対する抵抗感が少ないと感じます。分からない時にも推測しながら聞き、理解しようとする児童が多いです。また、グループで調べたり考えを出し合ったりして意見をまとめて発表する活動が増えたせいか、新6年生はグループで協力して活動したり、教え合ったり、男女関係なく誰とでも関わろうとする態度が「英会話」以上に育まれているように感じます。学んだ英語を積極的に使おうとする子どもたちを見ていると、今後の成長がとても楽しみです。



小学校の先生には、ALT や非常勤講師の誰と組んでも担任主導で自信をもって指導できるようになってほしいと考えています。担任が自信をもって授業を進めると、クラス全体のやる気がアップします。そのために、今までの実践や教育委員会主催の研修、非常勤講師の自主勉強会などで学んだことを先生方にも伝えるようにしています。

例えば、英語を意識しすぎず日本語も工夫して効果的に使うこと。私の英語が分からず戸惑う児童に対して、先生が「周りを見て、空気を読む。」と言ったことがありました。その児童たちは、私の指示を理解して動いていた友達の様子を見て真似しながら、同じように動くことができました。英語の通訳はしないよう普段からお願いしていますが、通訳でも説明でもない簡潔なこの一言に「小学校の先生は教えるプロだ。」と感動しました。英語は少しずつ増やしていけば大丈夫だと伝えています。

また授業時数が増えたのに加え、教科として評価するため現場には戸惑いもあるようです。「英語をもっと学びたい!」という意欲をもった児童を育てて中学校に送り出すために、指導はもちろん評価でもやる気を削がないことは、重要かつ難しい点です。評価をサポートできるようにするのが私の課題です。

他に、英語学習サイトでの継続した勉強や、中学校2種(外国語)免許状取得のための認定講習受講など、自身のレベルアップにも努めています。認定講習の受講者は埼玉県内の小学校の先生方で、英語の教科化に向けて専門性を高めるために準備・努力なさっています。担任と非常勤講師が協力して指導するさいたま市のやり方も1つの方策です。小学校英語指導に長けたJ-SHINE 資格認定者や経験を積んだ上級指導者が担任をサポートする体制があれば、教科化を支える大きな力になるだろうと思います。



* J-SHINE 通信 Web ページ

この2017年6月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE 通信はすべてJ-SHINE のWeb サイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>